

本  
架  
温  
泉

星野温泉

星野  
リゾート

2017.4.24

星野佳路

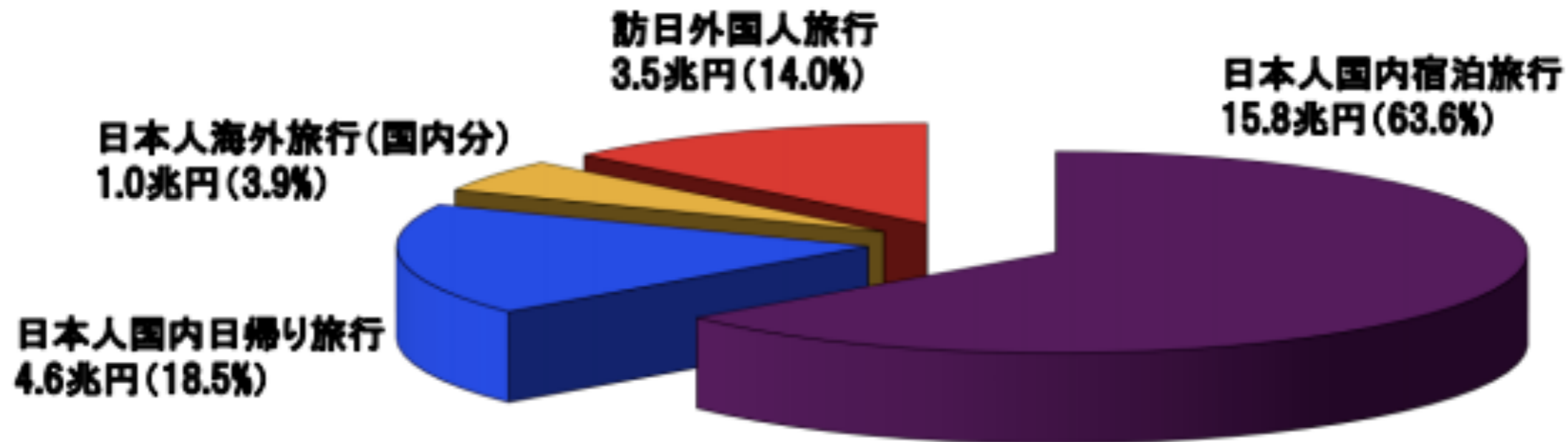


# 要約

需要の平準化は、日本観光の最も重要な成長戦略です。我が国の観光産業の特徴は20.4兆円という大きな国内需要が存在していることであり、これを年間に平準化し活用することで、生産性の高い産業へ転換することが可能となります。それが結果的に設備投資、正規雇用率増加、給与・職場環境の充実、優秀な人材の維持など、強い観光産業の育成に不可欠な要素に結びつきます。

生産性の向上を阻んでいる構造的な問題を解決せずに、インバウンドを含む需要を伸ばすことは、低収益性の事業者またはリスクを取らない経営者の延命にはなるものの、長期的に強い観光産業を育成することにはつながらないと考えます。

24.8兆円 (2015年)



観光庁「旅行・観光消費動向調査」、「訪日外国人消費動向調査」より算出

日本人の国内旅行消費額は**20.4**兆円

総需要24.8兆円は、すでに大きく、  
観光産業の真の問題は需要の規模ではない！

# 多くの観光関連事業者の共通課題

- 産業全体では大きな需要があるのに、生産性が低く、収益力が弱い（だから設備投資につながらない）。
- 総需要の82%は国内需要（日本人）であるが、その大きな需要が特定日（約100日）に集中している。

## 観光産業の構造的な課題

100日の黒字

年末年始、ゴールデン  
ウィーク、夏休み、そ  
れ以外の土日

265日の赤字

上記以外の平日

## 消費者への影響

1. 自分が旅行に行く日の価格が高い
2. 需要集中による混雑（交通・観光地・宿）
3. 顕在化しない内需  
(予約が取れないので行かない・混雑が嫌なので行かない)
4. 旅行商品の魅力低下  
(首都圏市場以外はターゲットする意味がないので、  
首都圏以外の市場のニーズにあった企画が出にくい)

## 観光産業の構造的な課題

100日の黒字

年末年始、ゴールデン  
ウィーク、夏休み、そ  
れ以外の土日

265日の赤字

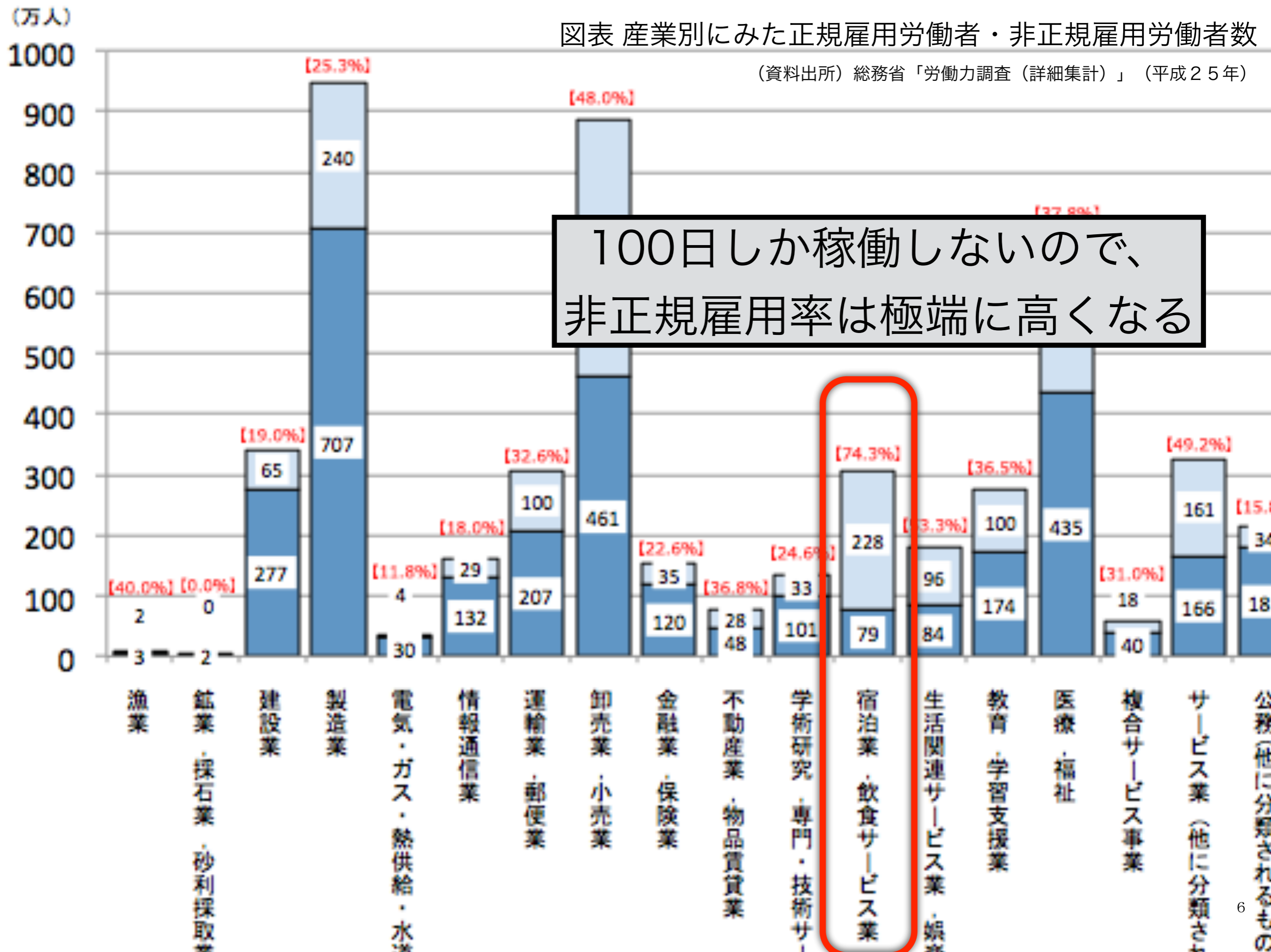
上記以外の平日

## 観光産業への影響

1. 低生産性/低収益
2. 投資採算性の低下
3. 派遣・臨時雇用への依存
4. 市場原理の不足  
(努力が成果になりにくい)

図表 産業別にみた正規雇用労働者・非正規雇用労働者数

(資料出所) 総務省「労働力調査(詳細集計)」(平成25年)



100日しか稼働しないので、非正規雇用率は極端に高くなる



# 対策：国内需要の平準化

## 大型連休の地域別取得

2010年

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
	九州・沖縄・中国・四国の休み					
16	17	18	19	20	21	22
	近畿の休み					
23	24	25	26	27	28	29
	中部・北陸信越の休み					
	31	1	2	3	4	5
	南関東の休み					
	7	8	9	10	11	12
	北海道・東北・北関東の休み					

4

5

例えば、

5地区に分散すると

フランスなど、観光先進国で実施している事例もある！



# 需要平準化

# 経済効果

消費者

混雑  
解消

交通・宿泊料金低下  
希望施設宿泊可能

満足度  
向上

埋蔵内需  
顕在化

観光宿泊産業  
の競争力

稼働向上  
& 平準化

派遣中心から  
正規社員中心へ  
サービス質的向上

頑張る  
施設は  
利益増

設備投資

建設・金融  
農業・製造  
波及効果

訪日外国人集客

施設の  
近代化

ソフットの  
改善促進

世界市場  
で魅力向上

観光立国  
へ大前進

# 以前、ご検討いただいた時の経済効果推計

## 休日の地域別分散で、混雑緩和等による新規需要創出や、旅行満足度向上等の効果が見込まれる。

### 混雑緩和で2.8兆円の新規旅行需要

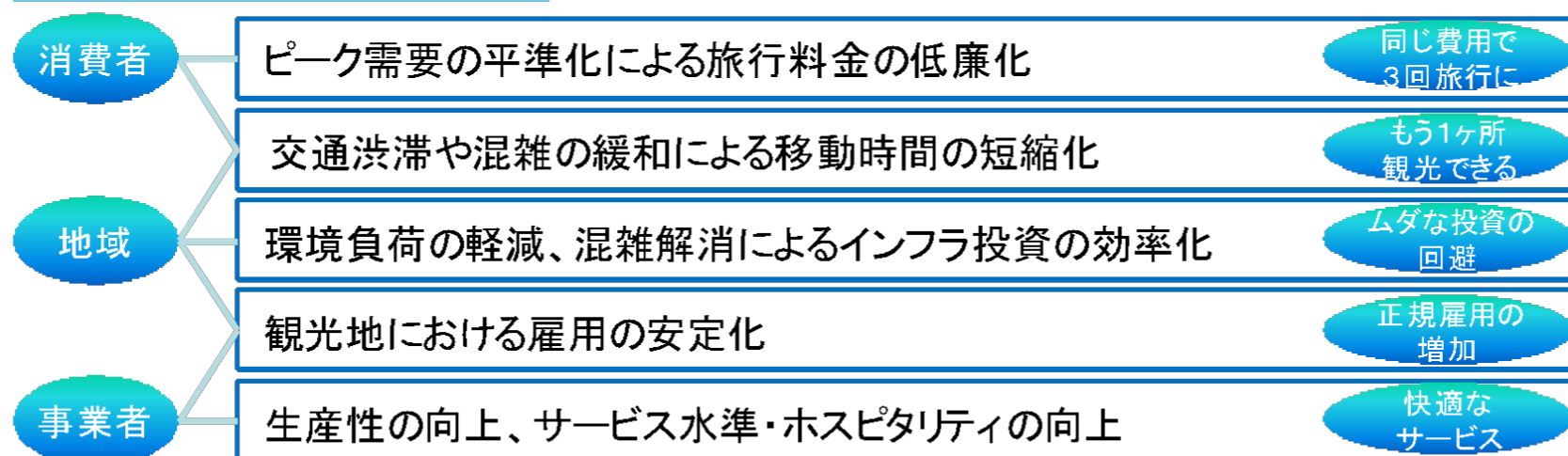
【春のゴールデンウィークの分散化】

- 実績)平成22年GWの国内旅行消費額 約1.4兆円
- 新規)混雑緩和による新たな国内旅行需要 **約1兆円**

【秋の連休の設定】

- 実績)平成21年SWの国内旅行消費額 約1.4兆円
- 新規)新たに創出される国内旅行需要 **約1.8兆円**

### 需要平準化の効果



旅行満足度の向上、リピーターの増加  
観光地の評価の向上  
潜在需要の喚起(高い料金や混雑を敬遠していた層)